

## 保育実習における実習巡回訪問指導のあり方の検討

— 学生と教員の意識の差異に焦点を当てて —

A Study on Visiting Instruction in Nursery Practice

幼児教育学科 教授 志濃原亜美

幼児教育学科 准教授 浅井拓久也

幼児教育学科 専任講師 北澤明子

Ami Shinohara

Takuya Asai

Akiko Kitazawa

キーワード

保育実習、巡回訪問指導、保育実習のミニマムスタンダード

Practice in Nursery School, Visiting Instruction, Minimum Standard of Nursery Practice

要約：本研究は実習巡回訪問を担当する教員とそれを受ける学生に対する実習巡回訪問の意義の差異を明らかにするという目的で、「保育実習における巡回訪問指導の在り方の再検討と有効な巡回訪問指導のシステムの開発」（一般社団法人全国保育士養成協議会平成 30 年度学術研究助成、研究代表者：志濃原亜美）によるデータを再分析し、実習巡回訪問指導についての教員と学生の意義の差に着目し、それをふまえて質の高い指導を探ることを目的としている。その結果、①実習生の実習巡回訪問指導に対するニーズ把握②実習を担当していない教員の「教育的機能」へのアプローチ③リラックスできる会話の重要性の 3 点が質の高い指導に必要となることが示唆された。

## はじめに

筆者らは、「保育実習における巡回訪問指導の在り方の再検討と有効な巡回訪問指導のシステムの開発」（全国保育士養成協議会平成 30 年度学術研究助成、研究代表者：志濃原 亜美）の研究（以下「平成 30 年度巡回訪問指導研究」）を通して、以下のような知見を得た<sup>注1)</sup>。

- ① 9 割の学生が巡回訪問指導において、部分・責任実習の取り組みや指導案などの指導を求めている
- ② 保育者効力感の高い学生ほど実習プログラムや実習意欲、挨拶・言葉遣い、リラックスするような会話などを求めている
- ③ 教員は学生の状況を把握や情報を収集するような項目や学生の精神的サポートなどを行う数値が高い
- ④ 実習のマニュアルは多くの養成校で存在するが、その運用や活用について十分に機能していない可能性
- ⑤ 教員の専門の違いや実習担当であるかないかによる回答の差異
- ⑥ 学生自身に実習意義について確認することや学生との面識を高める、構造化された学生への質問項目（細かく決まった質問項目）の実施、園との連携などの強化がより効果的な指導につながる
- ⑦ 実習巡回の負担を低減する取り組み、実習担当と訪問指導をする教員の連携など養成校側で取り組むべき課題、実習生・教員・実習園の三者の共通理解の必要性

なお、「平成 30 年度巡回訪問指導研究」では、巡回訪問指導を「スーパービジョン」の視点からとらえなおしている。スーパービジョンの理論については、カデューシンの理論を採用した。わが国でもカデューシンの理論は、広く定着しており<sup>注2)</sup>、社会福祉士養成の実習や現場でのスーパービジョンで活用されている。カデューシンは、スーパービジョンについて調査をしたなかから 3 つの機能（管理的機能、教育的機能、支持的機能）を導き出しテキストとしてまとめた人物である<sup>注3)</sup>。このカデューシンのスーパービジョンの理論に依拠しながら、保育実習で行われている巡回訪問指導の内容をそれぞれのカテゴリーに分けて項目を作り質問紙を作成した。カテゴリーの内容は図 1 のとおりである。

図1 カデューシンのスーパービジョンの機能に分類した巡回訪問指導の内容<sup>1)</sup>

<p>〈管理的機能〉 ①健康状態②安全状況③実習プログラム④実習意欲⑤日誌の提出状況⑥挨拶、言葉遣い⑦通勤方法・時間⑧実習先の方針の理解⑨シフトや園、施設などの質問</p> <p>〈教育的機能〉 ⑩実習先からの評価⑪実習課題への取り組み状況⑫部分・責任実習の取り組み状況⑬指導案⑭実習日誌の書き方⑮子ども・利用者との関わり⑯実習先の教職員との関わり⑰学習内容の質問⑱実習先からの指摘</p> <p>〈支持的機能〉 ⑲困っていること⑳悩みごとの解消㉑心配や不安㉒あなたを励ますことについて㉓学生の相談㉔宿泊実習に伴う不安㉕実習と関係ない日常会話㉖リラックスするような会話</p>
--

これらの項目のアンケートを一般社団法人全国保育士養成協議会に加盟する保育士養成施設を対象とした教員と保育士養成施設に所属する学生に同様の内容で行った。尚、学生に対しては、学生の特性をはかる独立変数として保育者が保育場面において自分が様々な状況下保育実践を上手に行うことができる自己認知を有する「保育者効力感」<sup>注4)</sup>(西山 2015)を使用した。

保育実習の先行研究として、代表的なものは、全国保育士養成協議会の一連の「効果的な保育実習のあり方に関する研究」やその集大成である「保育実習指導のミニマムスタンダード」、また、「保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究」(全国保育士養成協議会 2018)であろう。従来の保育実習研究においては、主に学生の意識、事前事後指導、評価、実習指導内容などが議論の中心であり、巡回訪問指導についての研究は限られている(志濃原、丸橋 2017)<sup>注6)</sup>が、社会福祉士の相談援助実習においては、巡回訪問指導についての研究は多くされている。平成 30 年度巡回訪問指導研究では、保育実習の代表的な先行研究である「保育実習指導のミニマムスタンダード」が保育実習の全体像における標準的なあり方を示している一方、実習巡回訪問指導内容については、基本的に各指導担当の教員に委ねられているのが現状を出発点として行われた。

本研究では、巡回訪問指導の質を高めるため特に教員と学生の実習巡回訪問の意義の差異を明らかにするという視点で「平成 30 年度巡回訪問指導研究」のデータの一部について再分析を試みた。本研究においては、教員と保育士養成校の学生との比較に重点をおいている。

## 2 研究方法

### (1) 調査概要

本研究では「保育実習における巡回訪問指導の在り方の再検討と有効な巡回訪問指導のシステムの開発」(全国保育士養成協議会平成 30 年度学術研究助成、研究代表者：志濃原亜

美) によるデータを使用する。同研究の報告書によると、調査概要は以下の通りである。

①学生を対象とした調査は、2018 年 12 月に首都圏内の短期大学 X の保育実習Ⅱの修了者に対して、WEB 上で質問に回答する方法で実施した。調査は授業内に実施し、173 名から回答を得た。

②教員を対象とした調査は、2018 年 10 月より全国保育士養成協議会会員校 546 校に対して、質問紙を郵送して実施した。回収率は、会員校 290 校 (59.1%)、教員 1618 名から回答を得た。なお、内訳は、大学 571 名、短期大学 720 名、専門学校等 327 名であった。

## (2) 分析方法

学生に対しては「あなたは、実習巡回時に以下の項目についてどの程度、指導を受けたいですか。最もあてはまる数字に○をつけてください。」として、「非常に受けたい」(5)、「受けたい」(4)、「どちらともいえない」(3)、「あまり受けたくない」(2)、「全く受けたくない」(1) の 5 件法で回答を得た。教員に対しては「あなたは、実習巡回時に以下の項目についてどの程度指導しますか。最もあてはまる数字に○をつけてください。」として、「よく行う」(5)、「行う」(4)、「どちらともいえない」(3)、「あまり行わない」(2)、「全く行わない」(1) の 5 件法で回答を得た。以上で得られた回答について欠損値がある回答を削除した結果、学生は 154 名、教員は 1408 名(実習担当教員 861 名、非実習担当教員 548 名)の回答を分析に使用した。学生、教員の回答の正規性を考慮してノンパラメトリック検定の 1 つである Mann-Whitney の U 検定を実施した。分析には SPSS v24 を使用した。

## (3) 倫理的配慮

倫理的配慮に際しては、『秋草学園短期大学「人を対象とする研究倫理」規程』の審査を受けた。

## 3 結果

表 1 は質問項目別に学生、実習担当教員、非実習担当教員による回答の平均値と標準偏差をまとめたものである。表 2 から表 4 は Mann-Whitney の U 検定の分析結果をまとめたものである。表内の平均位は高いほど高得点であることを示している。

表1 質問項目・対象別の平均値（標準偏差）

質問項目	学生	実習担当教員	非実習担当教員
1 健康状態の確認	3.47(.951)	4.78(.510)	4.52(.859)
2 安全状況の確認	3.63(.824)	3.58(1.084)	3.62(.991)
3 実習プログラムの確認	4.02(.762)	4.32(.773)	4.24(.838)
4 実習への意欲の確認	3.62(.734)	4.47(.730)	4.28(.833)
5 実習日誌の提出状況の確認	3.58(.846)	4.59(.762)	4.35(.872)
6 挨拶・言葉遣いの確認	3.77(.823)	4.01(.1940)	3.92(.981)
7 通勤方法や通勤時間の確認	3.28(.885)	3.55(1.116)	3.45(1.053)
8 実習先の方針の確認	3.56(.863)	3.59(.956)	3.59(.931)
9 学生からの質問への応答	4.01(.796)	4.58(.714)	4.45(.753)
10 実習先からの評価の伝達	4.32(.720)	3.75(1.048)	3.83(1.054)
11 実習課題への取り組みの確認	3.97(.736)	4.34(.781)	4.26(.787)
12 部分実習・責任実習の取り組みの確認	4.42(.693)	4.64(.574)	4.51(.688)
13 指導案の確認	4.38(.696)	3.73(.994)	3.70(1.103)
14 実習日誌の書き方の確認	4.12(.835)	3.8(.975)	3.76(.1030)
15 子どもや利用者との関わりの確認	4.12(.758)	4.48(.657)	4.40(.704)
16 実習先の教職員との関わりの確認	4.10(.768)	4.42(.703)	4.32(.754)
17 学習内容に関する質問への応答	3.70(.793)	3.93(.976)	3.84(.918)
18 実習先から指摘された事項の指導	4.05(.717)	4.50(.686)	4.38(.720)
19 学生が困っていることの確認	4.20(.770)	4.78(.475)	4.66(.596)
20 学生の悩み事の確認	4.18(.796)	4.37(.744)	4.29(.791)
21 心配や不安の除去	4.23(.737)	4.42(.696)	4.32(.734)
22 学生の激励	4.21(.914)	4.78(.464)	4.64(.643)
23 学生の相談への応答	4.14(.825)	4.53(.629)	4.43(.724)
24 宿泊実習に伴う不安の除去	3.88(.983)	3.84(1.024)	3.83(1.077)
25 日常的な会話	3.59(1.058)	3.03(1.182)	3.12(.943)
26 リラックスできるような会話	4.03(.896)	3.94(.947)	3.95(.943)

\*p &lt; .05, \*\*p &lt; .01, \*\*\*p &lt; .001

学生と全教員を比較した表2によると、「2 安全状況の確認」、「8 実習先の方針の確認」、「24 宿泊実習に伴う不安の除去」、「26 リラックスできるような会話」の4項目には有意差は認められなかったが、それ以外の項目では学生と教員の回答に有意差が認められた。また、大半の項目で教員の平均ランクが高かった。このことは、教員が指導、確認、応答することを重視していたと考えられる。それに対して、「10 実習先からの評価の伝達」、「13 指導案の確認」、「14 実習日誌の書き方の確認」、「25 日常的な会話」は学生の平均ランクが高かった。学生の側は、指導案をはじめとする指導やその対応を求めていると推測できるだろう。

表2 Mann-WhitneyのU検定結果（学生と全教員）

質問項目	平均ランク		U値	p
	学生	教員		
1 健康状態の確認	234.45	841.33	24171.000	.000 ***
2 安全状況の確認	783.64	781.27	108745.000	.949
3 実習プログラムの確認	619.84	799.18	83520.500	.000 ***
4 実習への意欲の確認	373.32	826.14	45556.500	.000 ***
5 実習日誌の提出状況の確認	321.97	831.76	37848.500	.000 ***
6 挨拶・言葉遣いの確認	674.37	793.22	91918.500	.001 **
7 通勤方法や通勤時間の確認	678.78	792.74	92596.500	.002 **
8 実習先の方針の確認	765.61	783.24	105969.500	.628
9 学生からの質問への応答	491.24	813.25	63715.500	.000 ***
10 実習先からの評価の伝達	1005.99	756.95	142988.000	.000 ***
11 実習課題への取り組みの確認	576.68	803.90	76873.000	.000 ***
12 部分実習・責任実習の取り組みの確認	674.3	793.22	91907.500	.000 ***
13 指導案の確認	1066.44	750.34	152296.000	.000 ***
14 実習日誌の書き方の確認	930.26	765.23	131325.500	.000 ***
15 子どもや利用者との関わりの確認	588.84	802.57	78746.000	.000 ***
16 実習先の教職員との関わりの確認	622.38	798.90	83911.000	.000 ***
17 学習内容に関する質問への応答	677.26	792.90	92362.500	.001 **
18 実習先から指摘された事項の指導	535.99	808.35	70607.500	.000 ***
19 学生が困っていることの確認	461.59	816.49	59149.500	.000 ***
20 学生の悩み事の確認	698.63	790.56	95654.000	.008 **
21 心配や不安の除去	688.44	791.68	94085.500	.003 **
22 学生の激励	524.66	809.59	68863.000	.000 ***
23 学生の相談への応答	591.93	802.23	79221.500	.000 ***
24 宿泊実習に伴う不安の除去	792.32	780.32	110083.000	.742
25 日常的な会話	985.72	759.16	139866.500	.000 ***
26 リラックスできるような会話	820.50	777.23	114421.500	.233

\*p &lt; .05, \*\*p &lt; .01, \*\*\*p &lt; .001

実習巡回訪問を担当する教員は、多くの保育士養成校では、学部や学科の全教員が行う場合が多い。直接実習を指導している保育やその周辺領域を担当する教員はもちろん、教養科目の教員や芸術系科目を専門とする教員も担当する。そこで、表3では、保育士養成校の学生と直接実習を担当する教員を比較した。また、表4では、学生と非実習担当教員を比較した。その結果、実習担当教員と非実習担当教員に分けた分析結果も全教員と学生の分析結果と同様であるという結果となった。

表3 Mann-WhitneyのU検定結果（学生と実習担当教員）

質問項目	平均ランク		U値	p
	学生	教員		
1 健康状態の確認	176.80	567.25	15292.000	.000 ***
2 安全状況の確認	511.81	507.32	66883.000	.855
3 実習プログラムの確認	409.75	525.57	51166.000	.000 ***
4 実習への意欲の確認	257.19	552.86	27672.000	.000 ***
5 実習日誌の提出状況の確認	225.80	558.48	22838.000	.000 ***
6 挨拶・言葉遣いの確認	441.78	519.85	56096.000	.001 **
7 通勤方法や通勤時間の確認	437.64	520.59	55461.000	.001 **
8 実習先の方針の確認	498.02	509.79	64760.000	.628
9 学生からの質問への応答	328.41	540.12	38640.000	.000 ***
10 実習先からの評価の伝達	641.95	484.04	86925.000	.000 ***
11 実習課題への取り組みの確認	384.14	530.15	47222.000	.000 ***
12 部分実習・責任実習の取り組みの確認	431.18	521.74	54466.50	.000 ***
13 指導案の確認	671.24	478.80	61436.500	.000 ***
14 実習日誌の書き方の確認	588.67	493.57	78720.500	.000 ***
15 子どもや利用者との関わりの確認	389.68	529.16	48075.000	.000 ***
16 実習先の教職員との関わりの確認	406.12	526.22	50670.000	.000 ***
17 学習内容に関する質問への応答	437.25	520.65	55402.000	.001 **
18 実習先から指摘された事項の指導	355.15	535.34	42758.000	.000 ***
19 学生が困っていることの確認	312.58	542.95	36202.500	.000 ***
20 学生の悩み事の確認	450.85	518.22	57496.500	.004 **
21 心配や不安の除去	440.89	520.00	55962.500	.001 **
22 学生の激励	348.10	536.80	41672.500	.000 ***
23 学生の相談への応答	390.12	529.00	48143.500	.000 ***
24 宿泊実習に伴う不安の除去	513.93	506.94	67209.500	.775
25 日常的な会話	627.67	486.80	84726.500	.000 ***
26 リラックスできるような会話	529.65	504.13	66631.000	.292

\*p &lt; .05, \*\*p &lt; .01, \*\*\*p &lt; .001

表4 Mann-WhitneyのU検定結果（学生と非実習担当教員）

質問項目	平均ランク		U値	p
	学生	教員		
1 健康状態の確認	134.68	412.44	8803.000	.000 ***
2 安全状況の確認	351.18	351.59	42146.500	.982
3 実習プログラムの確認	289.61	368.89	32665.000	.000 ***
4 実習への意欲の確認	193.04	396.03	17793.500	.000 ***
5 実習日誌の提出状況の確認	176.36	400.72	15224.500	.000 ***
6 挨拶・言葉遣いの確認	311.54	362.73	36042.000	.004 **
7 通勤方法や通勤時間の確認	316.47	361.34	36801.500	.012 *
8 実習先の方針の確認	344.81	353.38	41165.000	.642
9 学生からの質問への応答	241.59	382.39	25270.000	.000 ***
10 実習先からの評価の伝達	443.18	325.74	56314.500	.000 ***
11 実習課題への取り組みの確認	271.30	374.04	29845.500	.000 ***
12 部分実習・責任実習の取り組みの確認	321.58	359.91	37588.500	.016 *
13 指導案の確認	474.63	316.90	61158.000	.000 ***
14 実習日誌の書き方の確認	420.62	322.08	52840.500	.000 ***
15 子どもや利用者との関わりの確認	276.99	372.44	30722.000	.000 ***
16 実習先の教職員との関わりの確認	293.59	367.77	33278.500	.000 ***
17 学習内容に関する質問への応答	318.47	360.78	37109.000	.016 *
18 実習先から指摘された事項の指導	280.08	377.19	28118.000	.000 ***
19 学生が困っていることの確認	225.81	386.82	22840.000	.000 ***
20 学生の悩み事の確認	322.43	359.67	37719.000	.028 *
21 心配や不安の除去	325.54	358.79	38198.500	.048 *
22 学生の激励	254.70	378.70	27289.500	.000 ***
23 学生の相談への応答	278.86	371.91	31009.000	.000 ***
24 宿泊実習に伴う不安の除去	355.28	350.44	42778.500	.784
25 日常的な会話	435.83	327.80	55182.500	.000 ***
26 リラックスできるような会話	366.93	347.16	44572.000	.260

\*p &lt; .05, \*\*p &lt; .01, \*\*\*p &lt; .001

表5は、実習担当教員と非実習担当教員を比較した結果である。「3 実習プログラムの確認」、「8 実習先の方針の確認」、「9 学生からの質問への応答」、「10 実習先からの評価の伝達」、「11 実習課題への取り組みの確認」、「12 部分実習・責任実習の取り組みの確認」、「13 指導案の確認」、「14 実習日誌の書き方の確認」、「17 学習内容に関する質問への応答」、「18 実習先から指摘された事項の指導」、「20 学生の悩み事の確認」、「21 心配や不安の除去」、「23 学生の相談への応答」、「24 宿泊実習に伴う不安の除去」、「25 日常的な会話」、「26 リラックスできるような会話」の項目について、非実習担当教員より実習担当教員の平均ランクが有意に高かった。

表5 Mann-WhitneyのU検定結果（実習担当教員と非実習担当教員）

質問項目	平均ランク		U値	p
	実習	非実習		
1 健康状態の確認	706.36	701.61	234513.000	.745
2 安全状況の確認	704.13	705.07	236418.000	.965
3 実習プログラムの確認	731.92	661.85	212603.500	.001 **
4 実習への意欲の確認	712.92	661.41	228889.500	.268
5 実習日誌の提出状況の確認	715.19	687.87	226943.000	.124
6 挨拶・言葉遣いの確認	693.92	720.95	245167.000	.200
7 通勤方法や通勤時間の確認	710.32	695.45	231119.000	.488
8 実習先の方針の確認	732.69	660.66	211947.000	.001 **
9 学生からの質問への応答	747.63	637.42	199140.000	.000 ***
10 実習先からの評価の伝達	743.28	644.19	202872.000	.000 ***
11 実習課題への取り組みの確認	722.73	676.15	220480.000	.021 *
12 部分実習・責任実習の取り組みの確認	746.74	638.80	199905.500	.000 ***
13 指導案の確認	794.42	564.65	159045.000	.000 ***
14 実習日誌の書き方の確認	802.92	551.42	151757.500	.000 ***
15 子どもや利用者との関わりの確認	718.71	682.39	223922.500	.063
16 実習先の教職員との関わりの確認	705.60	702.78	235158.000	.887
17 学習内容に関する質問への応答	769.57	603.29	180335.500	.000 ***
18 実習先から指摘された事項の指導	745.15	641.27	201265.500	.000 ***
19 学生が困っていることの確認	704.97	703.77	235899.500	.937
20 学生の悩み事の確認	737.75	659.01	211037.000	.000 ***
21 心配や不安の除去	726.46	670.35	217287.000	.005 **
22 学生の激励	699.94	711.60	240013.500	.454
23 学生の相談への応答	732.22	661.39	212351.000	.000 ***
24 宿泊実習に伴う不安の除去	747.46	637.67	199282.500	.000 ***
25 日常的な会話	726.33	670.55	217397.500	.010 *
26 リラックスできるような会話	722.30	676.81	220845.000	.031 *

\*p < .05, \*\*p < .01, \*\*\*p < .001

#### 4. 考察

本研究では、保育実習における実習巡回訪問指導の教員と学生の差異に着目することで、より質の高い実習を目指すことを目的としてデータの再分析を試みている。以上の結果から、実習巡回訪問指導において、より質の高い実習を目指すために必要な3つの点が浮き



彫りとなった。

### （１）実習生の実習巡回訪問指導に対するニーズ把握

大半の項目で教員の指導への平均ランクが高く、教員は、管理的機能、教育的機能、支持的機能を行い、学生の実習を支えている姿が浮き彫りになったが、「10 実習先からの評価の伝達」、「13 指導案の確認」、「14 実習日誌の書き方の確認」、「25 日常的な会話」は学生の平均ランクが高かった。このような結果の背景には、学生は保育実習に対して、指導案や日誌などに不安を持っており、また、責任実習など子ども等の前で一日もしくは半日模倣的に保育を実際に回していくということに緊張もしていることが想定される。それゆえ、顔を見知った大学の教員の指導に「日常的な会話」などリラックスできることも求めているといえるだろう。また、「10 実習先からの評価の伝達」については、実習終了後に評価を聞くのではなく、現時点での評価を聞くことで実習での振る舞いの軌道修正をすることができると学生が考えているのではないだろうか。さらに、実習先からの現時点での評価を聞き、安心したいとも思っているのではないかと推測できる。

### （２）実習を担当していない教員の「教育的機能」へのアプローチ

実習における指導案の指導や日誌の指導などの教育的機能について、実習担当教員と、そうでない教員を比較すると、実習担当教員のほうがそうでない教員より対応しているという結果から、実習を担当していない教員であっても学生は教育的機能を求めており、このことは、実習巡回訪問指導を行う実習を担当していない教員の課題だといえるだろう。実際、実習を担当しておらず、専門が保育や周辺領域でない教員が実習日誌や指導案の指導をするのは難しく、非実習系の教員がいかに教育的な指導を学生にしていくのが今後の課題といえる。一般社団法人保育士養成協議会（2017）は、保育士養成校の教員は、「保育以外の専門性を基盤とした教員の割合も高」<sup>注5</sup>く、また「巡回訪問指導」に関して9割を超える保育士養成校で実習担当教員以外の教員も「巡回訪問指導」に赴くことがアンケートの結果から明らかとなっている<sup>注6</sup>。

### （３）リラックスできる会話の重要性

分析の結果、支持的機能の日常会話やリラックスできるような会話が、実習生にとって、緊張感を和らげる効果を持っていることが示唆された。実習巡回訪問指導（下線は筆者）であるので、「指導」すなわち教育的機能の保育内容に関する指導を念頭に置きがちであるが、子ども等とのかかわりや現場の指導者の指導、毎日の日誌など、普段の生活とは違う学びをしている実習生にとって、普段通っている養成校の教員が訪問し、話を聞いてくれるということは、不安や緊張感を和らげ、安心して話ができる場でもあることが明らかになった。このことは浅井・浅井（2019）<sup>注7</sup>の研究成果も同様であった。2019年末より続いている新型

コロナウイルス感染症の影響により、実習巡回訪問指導が電話やオンラインに代わったという養成校も現在は多いと思われる。そのような場合であっても、実習生と直接話し、気持ちを支えることは、意義のあることだといえるだろう。

## 5. まとめ

本研究では、実習生と養成校の教員の実習巡回訪問指導の意識の差に焦点を当て、また実習を担当する教員（実習教員）と実習担当ではない教員（非実習系教員）の分析をすることで、以上のことが明らかとなった。例えば、実習生が求めている日誌の書き方や指導案の内容など教育的機能などの指導については、保育についての知見を十分理解していないと答えることは難しいかもしれないが、日常会話やリラックスする会話などは可能である。しかしながら、ただリラックスできるような会話のみすればよいということではないし、単に保育の日誌指導や指導案に対する助言や指導を完璧に行ったからよい効果が生み出されるとも限らない。実習生自身が、子ども等と関わることに對してどのように考えるかという視点に立ち、指導していく姿勢が必要であろう。また、そのような視点に立つためには実習巡回訪問指導を担当する教員間で、連携や共通理解も必須であると考ええる。

スーパービジョンの技法では、バイザー（スーパービジョンを行う側）とバイジー（スーパービジョンを受ける側）の関係性やバイザーのスキルが重要となる。神林（2017）は、バイザーの役割として、スーパービジョンの前提となる「バイジーの語りやバイジーによる内省を促」<sup>注8</sup>することやその基盤となる「バイザーとバイジーの相互作用を促進する」<sup>注9</sup>役割も担っている、としている。ここでは、保育実習の巡回訪問指導におけるスーパービジョンを想定しているので、ソーシャルワーカーに対するスーパービジョンと同等には語られないが、実習生（バイジー）の語りや会話の中で内省を促すことや養成校教員と実習生の相互作用のなかから、「バイジーはバイザーから教わるのではなく、自らの不足に気づくためにバイザーという他者を活用するという視点」<sup>注10</sup>が必要であるだろう。そのためには、養成校教員は、直接的な「指導」や悩みにこたえることのみならず、実習生が養成校教員の話というフィルターを通して、内省し自己の不足に気づくようにしなければならないと考える。

また、ここでは、触れていないが養成校と実習施設との連携や共通理解も今後重要になってくるだろう。実習巡回訪問指導が「実習教育スーパービジョン」と位置付けられている社会福祉士養成についても渡辺ら（2019）の施設側と養成校の連携に関する研究では、「実習生に対して実習指導者及び養成校教員が実習スーパービジョンをどのように行っていくかという具体的な方法についても研究の必要性」<sup>注11</sup>がさらに重要となるとの見解が示されている。保育士養成については、施設側の指導者について、保育士資格の有資格者を求められているが、実習の指導については、国からは示されていない。しかしながら、有効な実習を行うためには、施設側の指導や養成校との連携を深めるという視点も今後の課題である。

## 引用・参考文献

---

注1) 志濃原亜美、北野大、茗井香保理、福田真奈、富山大士、丸橋聡美、三好力、米原立将、韓仁愛、長谷川直子（2019）『保育実習における巡回訪問指導の在り方の再検討と有効な巡回訪問指導のシステムの開発』一般社団法人 全国保育士養成協議会 平成 30 年度研究助成報告書

注2) 村尾美紀（2009）「第7章 実習指導方法論Ⅱ：実習教育スーパービジョン」日本社会福祉士養成校編『相談援助実習指導・現場実習教員テキスト』中央法規、p p 205－23

注3) アルフレッド・カデューシン、ダニエル・ハークネス（福山和女監修）（2016）スーパービジョンインソーシャルワーク、中央法規

注4) 西山修（2005）幼児の人とかかわる力を育むための保育者効力感尺度の開発.乳幼児教育学研究 14、pp. 101-108

注5) 一般社団法人全国保育士養成協議会（2017）「厚生労働省委託調査研究事業 平成 28 年度保育士養成施設における教育の質の確保と向上に関する調査研究」P. 139

注6) 前掲 注5) P.43

注7) 浅井拓久也・浅井かおり（2019）「保育所実習における訪問指導のあり方の検討 - 実習生にとっての訪問指導の意義に着目して - 」『東京未来大学保育・教職センター紀要』6、pp.1-10.

注8) 神林ミユキ（2017）「スーパービジョンセッションにおいて スーパーバイザーが用いるスキル —ソーシャルワーカーによるスーパービジョンの質的調査—」『社会福祉学 第58 巻第 1 号 71-85 2017』P.82

注9) 前掲 注8) P.83

注10) 前掲 注9)

注11) 渡邊隆文、安保 尚、井坂優美、檜木博之、初鹿野美穂、和光勇介、渡辺健市、渡辺裕一（2019）「実習スーパービジョンにおける実習指導者と社会福祉士養成校教員との連携に関する現状と課題 — フォーカスグループインタビューデータのテキストマイニングから —」『健康科学大学 紀要 第 15 号』P.19

・佐々木典彰・島内 智秋・江莉川淳子（2019）「実習指導者が重視する保育実習生への励ましの言葉について」『東北女子短期大学 紀要 No.58』：25 ～ 30 2019』

---